

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂		
事業所名	グループホーム「東海の里」	ユニット名	笑笑館
所在地	宮崎県延岡市水尻町255番地1		
自己評価作成日	令和元年8月28日	評価結果市町村受理日	令和元年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念「今を喜ぶ」を具現化すべく、入居者様が安心して生活していただき、できる限りお1人お1人、それぞれのペースで過ごすことができるよう、声かけや対応を工夫している。
 ・その方に対し、良い対応支援があった時にはスタッフに周知し、統一したケアが行えるように努めている。
 ・利用者様の要望に対して、スピーチロックをしない。今すぐにはできないことに対しても説明を行い理解を得るように心がけている。
 ・身体拘束を行わない努力と工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定例会議で職員は直接意見や要望を代表者に伝えて改善するよう取り組んでいる。代表者はホームのかかりつけ医として度々訪問し、職員が働きやすい職場づくりに努めている。夜間や不審者情報がある場合以外、門扉や玄関、廊下の出入り口は施錠はしていない。利用者一人ひとりに合わせた対応に努め、理念である「今を喜ぶ」ことができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回の定例会議で職員全員で理念の唱和を行い、その理念に沿って支援を行っている。 意識をして実践しようとしているが、全ては実践できていない。	敷地内に「今を喜ぶ」という石碑があり日常的に目にしている。玄関に理念と基本指針を掲示し、会議等で確認して、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の情報は回覧板等で把握できている。 参加できるものに関しては参加し、また地域の方や小学生などの訪問もあり交流を行っている。	敬老会に地域の児童の参加があり、運動会に招待されている。また、地域の神社の灯籠を地域福祉推進チームのメンバーと一緒に作成し奉納したり、隣接する事業所の100歳体操に参加するなど、日常的に交流するよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お花見交流会等に地域の方々に参加いただいたり、定期的に行われる運営推進会議に地区の代表の方が来ていただいているが、具体的な支援策は無い。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議は行われている。 職員数に余裕があるときは職員も参加していたが、今は管理者のみ。内容は議事録で確認し、サービス向上に努めている。	民生委員から100歳体操を紹介され、隣接する事業所の体操に参加したり、区長から地域行事の参加の呼びかけがあるなど運営推進会議で出た意見をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域連携会議などで連絡や報告、相談を行って、日頃からの協力関係を築くよう努めている。	地域連携会議に管理者が出席し情報交換したり、運営推進会議に市の担当職員の出席があるなど、協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安易に抑制帯を使うなどの身体拘束は行っていない。 職員会議などで身体拘束に関する勉強会も行い、職員全員で理解を深めている。	夜間は転倒予防のため4点柵・クッションマットとセンサーを使用する利用者がいるが、日中は使用していない。職員は音や何か感じたらすぐに対応し、家族と話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底				

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会などを開催し、またニュースなどの情報で職員同士で話し合うなどして、虐待行為が無いように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、定例会議時に、その勉強会を行うことで職員全体が権利擁護に対する理解を深めるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は主に管理者が行っている。家族に対し十分な説明を行っていると感じている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様から要望や苦情が寄せられた場合は、管理者を含めスタッフ間で話し合い、改善できる点に関しては改善するように努めている。	園便りで情報を発信し家族の意見を出してもらい、意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議やユニット会議、業務の間など、様々なシーンで意見交換を行い、運営に反映できるように努めている。	代表者は定例会議で直接職員から意見や提案を聞いたり、管理者を通じて聞くなど、運営に反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外の研修などに手当が付くので福利厚生がしっかりしていると思う。 職員数が足りていた時は、有給休暇が取得しやすかったが、今は難しくなっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回は外部研修に参加している。 またそれ以外にも希望すれば参加できる研修の案内もある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会、会議などに参加することで、他事業所の方々との交流が図れている。 また研修の受け入れなども行っている ので交流は行えている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には積極的にコミュニケーションを図り、本人からの意見などを聞き入れ安心して生活して頂けるように、早期の信頼関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望等に耳を傾け、理解し全スタッフに伝達している。 その内容に対応できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族と十分に話し合い、必要としている支援を見極め、適切な対応や支援が行えるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様とコミュニケーションを図り、その人らしく暮らせるよう、常に寄り添い、対等な人間関係を築くような努力を行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族に現在の状況をお伝えしている。 またそのような時に、家族からのご意見も取り入れるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、ご家族との外出は行っており、関係の継続は行えていると思う。 時間があるときはドライブなどを行い、なじみの場所巡りを行っている。		家族の協力を得て外食に出かけるなど関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相性も有り、席順等の配慮を行っている。 トラブルを防ぐために、入居者間に、ある程度職員が介入することがある。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば、支援するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを述べられる方であれば、よく話を聞く。困難な方は態度や表情から読み取り、出来る限り、その方らしい生活が送れるように努めている。		職員が買い物に同行したり、飲酒希望の利用者には家族と相談してお酒を提供するなど意向の把握に努め、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報や、ご本人様、ご家族様の会話の中から生活歴などを把握し、後のケアに反映できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や申し送りノート、朝の申し送り時などに入居者様の動向、現状の把握を行うように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットリーダーを中心に支援の方向性を話し合っている。その内容をケアプランに反映し、それに沿って支援を行うように努めている。		ユニットリーダーが家族と話し合っ介護計画書を作成している。利用者一人ひとりの日常生活を把握し、変化があれば即対応できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や業務日誌等で情報の共有を密に行っている。 また月1回のユニット会議でも様々な意見交換やケアの周知などを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や、そのご家族の状況や要望に応じて、柔軟に対応し、支援やサービスを行うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や、小学生、保育園の子ども達の訪問や近くの施設との交流もあり、季節ごとの行事を楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関をかかりつけ医としている。体調不良時などには速やかに対応できる体制が整っている。また訪問歯科診療を受けられている入居者さんもいる。	月に2回医師と看護師や薬剤師の訪問診療がある。体調変化時は医師の往診や看護師の訪問が随時あり、適切な医療を受けられるよう受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェック時に異常があれば、看護師に連絡し対応している。場合によっては、医療機関から看護師が来ることもある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんの入退院時の対応は主に管理者が行っている。その情報を受け対応を行っている。入院先に面会に行くこともある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化や看取りの必要性が発生した場合は、主治医や管理者からご家族に十分な説明を行い、スタッフも情報の共有を行い、医療連携の態勢を整えている。	契約書に看取り指針が示されており、入居時にも説明している。終末期には医師から家族に伝えられ、家族と共に支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について研修や勉強会を行っている。 AEDも常備し、緊急時に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行い、歩行が可能な方は裏山の避難場所まで歩いてもらっている。避難訓練には民生委員や地域の方にも参加してもらっている。	隣家の理解を得て避難訓練を行ったり、訓練には近隣に声かけし参加してもらうなど、地域との協力体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けひとつで不穏になられることがあるので、自分の心に余裕を持ち、声掛けするように心掛けている。常に崇敬の念を持って接するようにしている。		職員は、利用者に嫌な思いをさせないよう声かけに配慮し、理念や指針を常に意識して対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのペースに合わせ、選択肢を提案し、自己決定して頂くように努めている。また訴えが無い方には答えられるような声掛けを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など時間が決まっている物に関しては仕方ないと思うが、それ以外に関しては、自分のペースで過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方には、選んでもらっている。選ぶこと事が出来ない方はスタッフが選んでいるが、脱ぎ着のしやすい服を選ぶ現状がある。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食にパンの日や麺類の日などを設けている。食事を一緒に作る事はしていないが、テーブル拭きやおしぼり巻きなどを手伝って頂いている。		バランスを考えた食材を使って調理したり、利用者に合わせた食形態で食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥のある方にはミキサー食やきざみ食、水分にトロミを付けるなどの工夫を行っている。また毎食後、食事摂取量の記録を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて口腔ケアを行っている。拒否される方には時間をかけて行っている。義歯の方には週1回義歯洗浄剤での消毒も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のない方、また意思表示をされない方に関しては排泄時間と量を記録し、時間が来たら声掛けを行い、排泄介助を行っている。	聴力の低下がある利用者には視覚による声かけや耳元での声かをして誘導したり、チェック表を活用するなどして排せつの自立支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により排便間隔を把握している。普段から食物繊維の多い食材を使用したり、適量の水分を飲んでもらったりしている。またマッサージや体操も取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、週3回の入浴を行っている。拒否される方も居るが、暫くたってまたお声掛けするなどの対応を行っている。自立の方で、ほぼ毎日居られている方も居る。	納得できるよう十分説明し入浴支援を行っている。入浴していないことを本人が自覚できるよう入浴順番表を活用し、入浴を拒む利用者も定期的に入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、出来るだけ日中は起きていてもらえるようにレクリエーションを提供している。しかし、基本はご本人様の意志を尊重している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような症状で、どのような薬が処方されているかを把握している。服薬時は誤薬防止の為、2名体制で服薬を行っている。薬剤の変更時は申し送りノートを活用している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「仕事がしたい」と仰る入居者さんには、負担にならない程度に、洗濯物干しや片付け、おしぼり巻きや掃除などをお願いしている。敷地内の散歩には自由に行ってもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が困難な方も多いが、天気や職員体制などが良い時は、ドライブなどに出かけるように努めている。敷地内の散歩は自由に行ってもらっている。	敷地内や地区内を散歩したり、日光浴や外気浴を行い季節を感じられるよう支援している。買い物に利用者が同行したり、ドライブを計画するなど外出支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金を使うことはない。 ただ、数名の入居者さんの現金をホームで預かっており、外出されるときなどに持って出られることがある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい入居者様は、事務所内の電話を使用して頂くが、間違い電話を防ぐために職員が代わって電話を掛けている。早朝や夜間などは電話を掛けないように心掛けている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどの共用空間には季節に合わせた飾りつけや、行事の写真などを飾り付けている。 エアコンや扇風機などを使用し、適温の中で過ごせるように心掛けている。	共用空間は行事の写真や利用者の作品などが掲示され、季節感を取り入れて居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにはソファを設置している。 また西側の室外にはベンチを用意している。 個々が好きな時に好きな場所で過ごせるように心掛けている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具などを持ち込まれている方も居る。布団を持ち込まれている方も居る。また家族の写真を飾っている方も居る。	自宅で使い慣れた家具などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動箇所には手すりを設置している。また居室には、その方が理解できるよう名札を掲げている。トイレの表記も分かりやすくしている。			